

2025年 国語入試概要（短大）

【概要】

高校までの学習で積み重ねてきた語彙力、文章読解力、論理的思考力が試されます。適切な日本語表現の理解や、現代の論説文を論理的な思考に基づいて正確に読み解く力が重視されます。

- ・ **出題分野**：現代文のみが出題され、文学作品・古文・漢文の出題はありません。
基本的には同傾向の出題構成・形式で、日程による出題形式の差はありません。
問題形式・難易度の変更もありません。

【出題形式】

全問マーク方式で、記述式の問題はありません。大問は3題で構成されています。

第1問 語句の適切な意味（慣用句、四字熟語、ことわざ、外来語など）：10問

第2問 日本語表現（短文の適正判断、語彙・漢字の使い方など）：5問

第3問 長文読解問題（約3500字程度）：20問

長文読解の設問形式：空所適正語句補充、内容一致、指示語の内容把握、換言・抜き出し（内容説明に相当）、語句の意味・漢字表記の確認、脱文の挿入位置の特定など、多様な形式で出題されます。

【出題内容・傾向と学習へのアドバイス】

第1問：語句・語彙

- ・ **出題内容**：慣用句、四字熟語、故事成語、ことわざ、外来語など社会で一般的に使われる語彙の意味が問われます。
- ・ **傾向**：読解問題の土台となる基礎的な知識を習得しているかが問われます。
得点源となる分野です。
- ・ **学習アドバイス**：
 - 高校生が習得すべき範囲を網羅した語彙集や漢字問題集などを活用し、知識が定着するまで反復学習を徹底していきましょう。
 - 確かな語彙力は、大学での専門知識の習得や、自身の思考を明確に表現するための強固な基盤となります。

第2問：日本語表現

- ・ **出題内容**：短文が日本語表現として適切な文法・敬語・語彙・表記などの使い方、対義語と同義語、紛らわしい漢字などが問われます。
- ・ **傾向**：日本語表現として、日常的な口語表現との違いを問われます。漢字の使い分けや文に適する語彙、適切な送り仮名なども学習対象となっています。
得点源となる分野です。
- ・ **学習アドバイス**：
 - 日本語検定関連の初・中級レベルの問題集などを活用し、知識が定着するまで反復学習を徹底していきましょう。
 - 多様性が重視される現代社会においても、公式な場面では、状況に応じた適切な日本語表現を用いることが求められます。将来、良識ある社会人として行動するためには、TPOに応じた適切な日本語表現を身に付けておくことが不可欠です。日頃から意識して、しっかりと学習しておきましょう。

第3問：長文読解問題（評論文／論説文）

- ・ **文章のテーマ**：科学、情報、社会、文化、歴史、哲学など、現代社会に関連する多岐に渡るテーマの論説文（評論文）が題材として選ばれます。
- ・ **出題意図**：現代の文章を論理的に読み解く力を測ることに重点が置かれています。筆者の主張（結論）とそれを支える論拠（理由・具体例）を、主観を交えずに正確に把握する能力が問われます。

読解のポイント：

1. 筆者の主張と論理構造を把握する

- ・現代文（評論文・論説文）は、必ず論理構造を持っています。この構造を可視化することが、正確な読解の第一歩です。各段落の「要旨文」（トピックセンテンス）を特定し、その要旨文が、文章全体の主張に対してどのような役割（説明，具体例，根拠，反対意見の提示など）を果たしているかを分析します。
- ・筆者が「何について」（主題）、「どのような意見を述べたいのか」（主張／結論）を、最優先で探し出します。主張は、「～すべきだ」「～と言える」「～しなくてはならない」「～が肝要だ」といった断定的な表現や前半で疑問の形で示したものに答える形で述べることが多いです。
- ・文章中で繰り返し使われる専門用語や概念（キーターム）には線や印をつけて読み進めましょう。
- ・評論文はしばしば二項対立（例：自然 v s 文化，個人 v s 社会，A v s B）の構造で書かれます。この対立図式を明確に把握することが、筆者の立場を理解する上で不可欠です。接続語（「しかし」「したがって」など）や指示語（「これ」「その」など）が示す論理的なつながりを丁寧に追うことが極めて重要です。

2. 選択肢の厳密な吟味：

- ・正解の選択肢は、本文の主旨，範囲，因果関係を正確に反映しているかを細部まで確認しましょう。選択肢を選ぶ際は、「なぜ正しいか」ではなく、「間違いではないか」という視点から、本文に戻って一つずつ消去法で検証することが、正答率を上げる鍵となります。
- ・本文の一部を切り取りながら文脈と異なる解釈を導くものや、本文に書かれていない一般論を混ぜる紛らわしい選択肢を排除する力が求められます。間違いとなる選択肢にはいくつかのパターンがあります。〈拡大解釈型:本文中に書かれていない，あるいは筆者の意見を越えた内容を含んでいる。〉〈断定型:本文中では複雑な話であるものを選択肢では単純化したり，決めつけたりしている。〉〈情報欠落型:本文内に書かれてはいたがそれよりも重要な情報が欠けていて不十分である。〉〈すり替え型:本文中の語句を使いながらも，因果関係（原因と結果）や主語・目的語がすり替えられていて本文とズレがある。筆者が批判している内容を，筆者が主張している内容として提示している。〉〈部分一致型:大まかには本文の内容と合うが，ごく一部に逆の内容や不適切な内容が含まれている。〉これらに注意して判断しましょう。

3. 文脈的語彙力：

文脈の中で語句の意味を正しく判断できる力も試されます。空欄を含むごく一部だけを確認しただけでは，選択肢から1つに絞り込めないものもあります。その段落全体で述べられていること，本文全体からの文脈を汲み取って選択する必要があるものも含まれます。

○ 時間配分と実戦的なアプローチ

長文読解（第3問）は，文章量が多く（約3500字），設問数も多いため，最も時間を要します。

- ・ **時間配分：** 語句問題（第1問）を短時間（例：5～7分以内）で確実に済ませ，読解問題に十分な時間を確保しましょう。
- ・ **問題全体の「地図」を読む：** 問題に取り組む前に，全体にざっと目を通し大まかに把握しておくこと，読む際に集中すべき箇所が明確になります。
- ・ **多読：** 日頃から，新聞の社説，新書，質の高い論説誌など，多様なテーマの評論文を意識的に読み，速読力と背景知識を養いましょう。ある程度の知識があると読むスピードを上げて理解できます。文章の構造や筆者の主張を掴む力を鍛えることが重要です。